

## 変動型最低制限価格制度の算定方法

有効な入札数( )のうち、下位60%の業者数(=算定数)を求め、その入札金額の平均値に、80%を乗じて得た数値を、最低制限価格とする。

( )有効な入札数とは、予定価格内の金額を記入し、入札書に不備がないものを言う。

### (1) 算定数の算出

有効な入札数に対し、0.6を乗じる。(小数点以下切り上げ)

(例) 10者の場合は、 $10 \times 0.6 = 6$  者

9者の場合は、 $9 \times 0.6 = 5.4$  6者

8者の場合は、 $8 \times 0.6 = 4.8$  5者

7者の場合は、 $7 \times 0.6 = 4.2$  5者

6者の場合は、 $6 \times 0.6 = 3.6$  4者

有効な入札数が、5者の場合は、4者とする。

( )ただし、有効な入札数が、4者以下の場合は、発注情報に最低制限価格の設定を明記している場合であっても、最低制限価格を設けないこととする。

### (2) 最低制限価格の算出

入札金額が低いものから、(1)で求めた算定数分の入札金額の平均額を求める(千円未満切捨て)。求めた平均額に0.8を乗じた額を最低制限価格とする(千円未満切捨て)。

### (3) その他

算定数内で1番高い金額で入札した者が、2者以上同額の場合は、同額の者全てを含め平均値を求める。

(例) 有効な入札数が10者の場合は、算定数が6者となる。その場合において入札額の低いものから6位と7位が同額の場合は、算定数を7とし、1位から7位までの平均値を求める。

### 算出例

参加者 9者 全てが有効な入札の場合

【予定価格：2,100,000円】

入札額が低い順	参加者	入札額	
9位	A社	1,955,000	
8位	B社	1,860,000	
7位	C社	1,850,000	
6位	D社	1,460,000	1位~6位の平均 1,286,500円
5位	E社	1,449,000	
4位	F社	1,310,000	

3位	G社	1,300,000	}	
2位	H社	1,200,000		落札
1位	I社	1,000,000		落札外(低)

有効な入札数が9者の場合は、算定数が6者となるため、1位～6位の平均値、1,286,000円(千円未満切捨て)を算出する。そこに、 $0.8$ を乗じて、 $1,286,000 \text{円} \times 0.8 = 1,028,000 \text{円}$ (千円未満切捨て)を最低制限価格とする。

これにより、2位の1,200,000円にて入札したH社が落札候補者となる。

参加者7者 入札書不備 1者の場合

【予定価格：600,000円】

入札額が低い順	参加者	入札額		
7位	A社	500,000		
6位	B社	500,000		
5位	C社	490,000	}	
4位	D社	480,000		1、2、4、5位の平均
3位	E社	450,000		436,250円
2位	F社	400,000		
1位	G社	375,000		落札

7者のうち、1者が入札書不備となったため、有効な入札は6者となる。6者の場合の算定数は、4者となるため、3位を除く下位4者である、1～2位と4～5位の平均436,000円(千円未満切捨て)に $0.8$ を乗じ、 $436,000 \text{円} \times 0.8 = 348,000 \text{円}$ (千円未満切捨て)を最低制限価格とする。

これにより、1位の375,000円にて入札したG社が落札候補者となる。

参加者8者 全てが有効な入札 算定数の上位2者が同額の場合

【予定価格：800,000円】

入札額が低い順	参加者	入札額		
8位	A社	620,000		
7位	B社	610,000		
6位	C社	480,000	}	
5位	D社	480,000		1位～6位の平均
4位	E社	450,000		396,666円
3位	F社	410,000		
2位	G社	360,000		落札
1位	H社	200,000		落札外(低)

有効な入札数が8者の場合、算定数は5者となるが、5位と6位が同額なため、算定数を6とし、1位から6位までの平均値396,000円(千円未満切捨て)を求める。そこに $0.8$ を乗じ、 $396,000 \text{円} \times 0.8 = 316,000 \text{円}$ (千円未満切捨て)を最低制限価格とする。

これにより、2位の360,000円にて入札したG社が落札候補者となる。